

春山地区の誇り

橋本左内先生が生まれ育った“清新な文化と歴史のまち”

橋本左内先生は天保5年、福井城下常盤町(現、春山2丁目)で医家に生まれた。幼いころから学問を好み15歳の時に「啓発録」を著し、16歳の時大阪に出て緒方洪庵の適塾で蘭学、西洋医学を学び、帰国後は藩医として父の後を継いだ。21歳のとき江戸で蘭学を学び、24歳で藩校明道館の学監同様心得に任じられ、松平春嶽公に仕え將軍継嗣問題等の国事に奔走したが安政の大獄で26歳の若さで斬首に処された。生誕地には宅跡を示す石柱と左内先生の産湯に使われた“常盤の井”、“御物啓発録碑”が保存されており、毎年4月11日に生誕祭が執り行われている。



佐々木英洋画 橋本左内翁肖像(明治時代)

春山公民館には左内先生の胸像と座右の銘「急流中底之柱即是大丈夫之心」の木碑が飾られている。胸像は福井市体育館前にあった青年の家で50有余年、青雲の志を抱く若者を見守ってきた像であり、平成21年同館取り壊しに伴い春山公民館にお迎えをした。



春山小学校の児童は6年生になると授業で左内先生の学びを始める。生誕祭で「左内先生を讃える歌」を斉唱し、また、地域の“左内塾”のメンバーから話しを聞き、一人ひとりが様々な視点で「左内新聞」を作成し、秋の公民館まつりで成果を発表する。



春山公民館 館長
柳沢 全之さん

春山は藩政時代から戦前にかけて福井城下の交通の要、商工業の中心地であり、その名は松平春嶽公の号に因み名づけられた由緒ある地名である。まさに、文教・司法の町、「清新な文化と歴史のまち、学びのまち」である。

春山公民館

住 所／福井市文京3-11-12
電 話／0776-22-0057
交通機関／えちぜん鉄道「福大前西福井駅」から徒歩5分